



# 厚木基地

## 米海兵隊が訓練拠点化

### オスプレイなど支援業者募集

シンカ22に演習で厚木基地に飛来し駐機する米海兵隊MV22オスプレイ（左6機）とCH53E大型ヘリ（右3機）＝15日、神奈川県綾瀬市（米国防総省映像情報配信サービスDVIDS）

米海軍が厚木基地（神奈川県大和、綾瀬市）をMV22オスプレイなど米海兵隊航空部隊の訓練拠点として使用を計画していることが、24日までにかわりました。

米海軍航空戦術センター訓練システム部が5月11日、「西太平洋海兵隊基地ハワイ」が管理する実動訓練システムの運用・整備業務の入札に参加する業者選定の事前募集を開始。契約業者は、普天間（沖縄県）、ハワイの基地に加え厚木基地でも、海兵隊共通乗員訓練装置（MCAT）、夜間画像化脅威評価（NITE）実験室の運用や整備を実施します。対象機種は、海兵隊MV22オスプレイ、CH53E大型ヘリ、AH1Z攻撃ヘリ、UH1Y汎用（はんとし）ヘリ、海軍MH60R/S多任務ヘリです。

複数業者との契約で、業務期間は最大60カ月（5年）。2023年4月1日から開始予定です。

厚木基地には今年3月の東富士演習場での日米共同演習で、米海兵隊のオスプレイやF35B戦闘機が飛来。今月11日から北富士、東富士西演習場で米海兵隊が陸上自衛隊部隊を

「敵役」に実施している演習「シンカ22」でもオスプレイとヘリ合わせて十数機が厚木基地に展開し

ています。富士山周辺や本州で実施する演習で、海兵隊航空部隊の使用が増加しています。